

科目名	Introduction to American Culture II				
英語科目	○	ナンバリング	(https://syllabus.kyoto-su.ac.jp/syllabus_search/#n)を参照		
開講期	秋学期	開講学部等	外国語学部	配当年次	2年次
教員名	宮澤 直美			単位数	2単位

授業概要／Course outline

この授業は基本的に英語で行う。

「米文化概論I」では、人種、ジェンダー、多文化主義、戦争等のテーマを据え、アメリカを歴史的な流れの中で捉えることに重点を置いた。「米文化概論II」では、この知識を土台として、現代アメリカ社会をより身近なものを通じて、アメリカ人の日常的な視線から再考することを目指す。多様な宗教的思想が同居する学校や職場での政治的配慮、資本主義と消費文化やハリウッドといったエンターテインメント産業の興隆、芸術、ジャーナリズム等を柱に、日常という「小さな」歴史を通じて異文化理解を深めていく。

具体的には、最新のアメリカの動向を伝える英語の資料(ニュース記事、リサーチ・データ、宣言文、小説、映画、動画、音楽)を受講生自らが調べ、それらを分析考察し、英語でディスカッションするなど、異文化を能動的に学習する機会を組み込む。加えて、留学体験の振り返りや海外事情の調査を通じて、アカデミックな視点から異文化体験について考察する機会を設ける。受講生は、本授業の終盤において、興味のあるテーマを選び、調査し発表することで、世界の文化の多様性に対する理解を深めるとともに、確かな分析力や思考力を鍛えていく。

授業形態、授業方法等／Course form・type

【授業形態】

対面授業

【授業方法】

講義

・アクティブ・ラーニング授業（形態：ディスカッション、ディベート／グループワーク）

ディベート：世界のサマータイム制度に対する反応について受講生が調べ、その是非を、ディベート形式を通じて考える。

ディスカッション：世界のエンターテインメント産業について受講生が調べた結果を、英語で話し合う。

・ICTを活用した授業（形態：クリッカー、タブレット端末、スマートフォン等を活用した双方向型授業／遠隔教育（ビデオ・オン・デマンド等））

Moodleを用いた授業内クイズやフィードバック、出席確認をする。

オンデマンド授業はMoodleで行う。

授業内容・授業計画／Course description・plan

授業計画

第1回 インTRODクシヨン-日常の中の異文化

（授業の概要、進め方、評価について説明する。さらに、身近な異文化に気づくことの難しさと重要性、異文化コミュニケーションの現状について教員が解説する。）

第2回 サマータイム制度の背景(異文化の一例として海外で実践されているサマータイム制度について学ぶ。)

第3回 サマータイム制度の問題点

（ディベート：サマータイム制度に対する反応について受講生が調べ、ディベート形式を通じて考える。）

第4回 愛国主義と国民の休日(メモリアル・デー等の映像資料を視聴し、愛国主義と国民の休日の関係性について考察する。)

「教員－学生間の対話」実施

第5回 ナショナリズムと国民の休日

第6回 宗教と国民の休日

★オンデマンド テーマ：多様性と家族

アメリカの人種、宗教などの多様性についてオンデマンドで学ぶ。

オンデマンド授業は、第6回の授業時に、90分相当の課題をMoodleに掲載する。

第8回の授業時まで、課題を行うこと。

第7回 ジャーナリズムの歴史(19世紀の雑誌革命などを取り上げる。)

第8回 ジャーナリズムとニューヨーク

（ニューヨーク・タイムズの歴史や、新聞コラムを通じて見えてくるニューヨークの移民文化などについて学ぶ。）

第9回 資本主義(ディスカッション：資本主義とアメリカン・ドリームについて)

第10回 消費文化(1920年代消費文化の台頭と女性の役割の変化について学ぶ。)

第11回 エンターテインメント産業とアメリカン・ドリーム

(ディスカッション:世界のエンターテインメント産業について受講生が調べた結果を、英語で話し合う。)

第12回 ファッション

(ファッションを通じてアメリカ文化を考え、これまでの授業の総括に繋げる)

第13回 映像・アート

(視覚芸術を取り上げ、特に映画の歴史を概観する。映像を通じてアメリカ文化を考え、これまでの授業の総括に繋げる。)

第14回 試験と解説によるまとめ

「学習成果実感調査」実施

* 尚、スケジュールは受講生の人数などによって変更する可能性がある。

事前・事後学修／Preparation and assignments

第1回：イントロダクションー日常の中の異文化

事後学習：日常の中にほぼ無意識で存在しているアメリカ文化について考えておく。

第2回－3回：

事前授業：次回の資料資料を読み授業内容とテーマを把握する。

事後学習：サマータイムの問題点について図書館、インターネットでさらに詳しく調べて課題を提出する。

第4回：

事前授業：次回の資料を読む。

事後授業：Moodleで課題をする。課題を元に授業のはじめにグループワークする。

第5回：

事前授業：次回の資料を読み授業内容とテーマを把握する。

事後学習：配布資料を読み、まとめる。

第6回：

事前授業：次回の資料を読み授業内容とテーマを把握する。

事後学習：Moodleで課題をする。課題をもとに授業のはじめにグループワークする。

★オンデマンド テーマ：多様性と家族

事前学習：アメリカの多様性が表出した最近の出来事を調べる。

事後学習：調べたこと、資料を読んで理解したことを自分の言葉でまとめる。

第7回：

事前授業：次回の資料を読み授業内容とテーマを把握する。

事後学習：配布資料を読み、まとめる。

第8回：

事前授業：次回の資料を読み授業内容とテーマを把握する。

事後授業：ここまでの授業で扱った各テーマは互いにどのように関連しあっているのか、自分の考えをまとめる。

第9回：

事前授業：次回の資料を読み授業内容とテーマを把握する。

事後学習：Moodleで課題をする。課題をもとに授業のはじめにグループワークする。

第10回：

事前授業：次回の資料を読み授業内容とテーマを把握する。

事後学習：配布資料を読み、まとめる。

第11回：

事前授業：次回の資料を読み授業内容とテーマを把握する。

事後学習：配布資料を読み、まとめる。

第12回：

事前授業：次回の資料を読み授業内容とテーマを把握する。

事後授業：ここまでの授業で扱った各テーマは互いにどのように関連しあっているのか、自分の考えをまとめる。

第13回：

事前学習：これまでに授業をすべて、振り返りわからない点を明確にしてくる。

事後学習：これまでの総復習をしテスト対策をする。

第14回：試験と解説によるまとめ

事前学習：これまでの総復習をして試験に臨む。

* 授業の進行状況によって課題のタイミングや内容を変更することがある。

* 事前学習に各授業90分、事後学習に各授業90分、必要である。上記の内容を確認して、しっかりと事前・事後学習を行うこと。

授業の到達目標／Expected outcome

1. アメリカの歴史、社会、文化について基本的な知識を習得しながら、世界の文化の多様性を理解し、異文化に柔軟に対応できる適応力を培う。
2. 受動的に知識を吸収するだけでなく、疑問を持ち、能動的に調査し考察する重要性を理解する。
3. 授業で扱ったアメリカ文化のトピックに関して、論理的に思考することができるようになること。
4. 自分の分析をわかりやすい言葉で表現できるようになること。
5. グループワークを通じてコミュニケーション、ディスカッション能力を高めながら、異文化コミュニケーションの現状と課題について理解できるようになること。

身につく資質・能力／Competencies to be attained

・思考力

専門知識・専門技能

【外国語学部 英語学科】

- ・異文化理解
- ・世界情勢と学習言語圏の理解
- ・言語に関わる調査・研究・発信能力

履修上の注意／Special notes, cautions

授業内容をより体系的に習得するために春学期から履修することが強く望まれる。

基本的に英語で行う講義授業であるため、TOEFL430点以上を取得しているか、一学期間以上の留学経験があることが望ましい。これ以外の者は、事前に担当教員に相談する必要がある。

評価方法／Evaluation

授業への貢献度および授業時発表などの平常点（10%）、小テストやレポートなどの課題（70%）、試験（20%）授業内で課したレポートにて、優れた内容は随時、授業で紹介しフィードバックを行う。

教 材／Text and materials

資料はMoodleにアップするので、各自ダウンロードして使用する。

参考書・参考資料等：

『概説 アメリカ文化史』 笹田直人、堀真理子、外岡尚美 編 ミネルヴァ書房、2002年

『アメリカ文化史入門：植民地時代から現代まで』 亀井俊介 編 昭和堂、2006年

質問や相談の方法／Instructor contact

研究室： 第2研究室棟 504研究室

オフィスアワー： 金曜日 昼休み

メールアドレス： Moodleに記載されているメールアドレス

※授業に関する質問や相談などがある場合は、上記時間に研究室へ訪問するか、メールで質問すること。